

令和 6 年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立大野東小学校	校長	林 健一郎	生徒指導主事	中尾 美和
取組事例名	『児童のアイデアで広がる委員会活動』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
本校では、例年通り、常時活動が中心の委員会活動が行われていた。今年度は、「スローガンを実現するために自分たちの委員会で行えること」を考え、実行するという、主体的に取り組む委員会活動を行いたいと考え、設定した。	児童が自ら学校の課題を考え、解決に向けてアイデアを出し、取り組む主体的な委員会活動を通して、大野東小学校の一員として、よりよい学校にしていこうとする意欲をもった児童を育てる。



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
1. スローガン「笑顔でチャレンジ」を達成するために、大野東小学校の課題と、その課題を解決するために自分たちにできることを各委員会で話し合う。 2. 委員会で考えたアイデアを実行する。 ① <u>生活委員会「あいさつ名人さがし隊」</u> →進んで挨拶をする人を増やすための取組をいろいろと企画。例えば、校内を歩いている生活委員会のメンバーを見つけて挨拶をしてスタンプを集める企画などを実施した。低学年も積極的に参加し、楽しんでた。 ② <u>掲示委員会「俳句コンテスト」「サンタをさがせ」</u> →季節に合わせた参加型の掲示を増やすなど、全校児童が楽しめる活動を企画。俳句コンテストでは、校長先生賞などもあり、積極的に参加する児童が多かった。 校内のあちこちに このサンタが隠れて います。 3. 自分たちの活動を振り返り、来年度の委員会を担当する5年生に仕事の内容や委員会の活動の楽しさ等をプレゼンする。	児童にめあてをもたせるために 新しく委員会活動を始めた時期に、「委員会＝仕事」という委員会活動だけではなく、「自分たちで何か新しいものを考えて取り組んでいこう。」と投げかけ、やってみようという意欲をもたせた。 児童の意欲を高めるために 各学級で積極的に取組に参加するよう声かけをしたり、職員も一緒に参加したりすることで多くの児童が活動に参加していた。委員会のメンバーも更に工夫していきいたいという意欲をもつことができた。 児童の頑張りを認め、価値付けるために 先生方がイベントの感想を委員会メンバーに伝えたり、多くの児童が参加したりすることで、6年生は「やってよかった。」という思いをもつことができた。「委員会は仕事をするもの」という考えだけではなく、「学校を楽しくすることができると」という思いをもたせることができた。



3 成果と課題

◎委員会活動は、自分たちで工夫して取り組むことができる活動だという思いをもち、自主的に活動する児童が増えた。多くの児童が参加することでやってよかったという自己肯定感を高めることにつながった。

▼各委員会任せになってしまう面もあり、工夫した活動をできなかった委員会もあった。時期を決めるなどして、多くの委員会に自主的な活動をする機会を作るとよかった。